トピックス

水産資源研究所さけます部門への組織改変にあたって

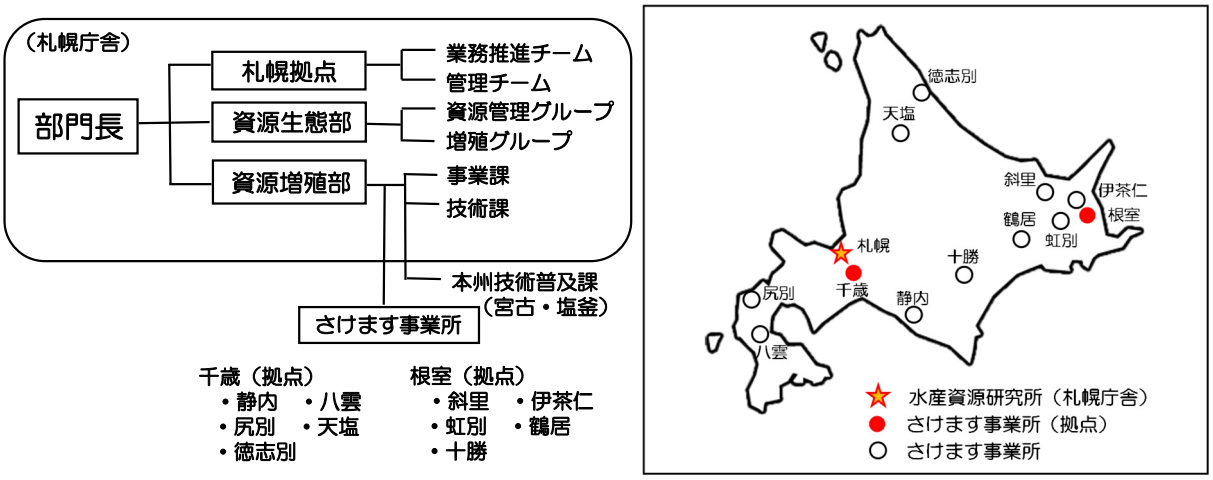
黒川（くろかわ）　忠英（ただひで）（水産資源研究所さけます部門　部門長）

国立研究開発法人水産研究・教育機構は，2020 年の 7 月 20 日に大幅な組織改変を行いました。これまでの地域別の海区水産研究所の枠組みがなくなり，水産大学校と開発調査センターを除くすべての研究所を，大きく 2 つの研究所に再編しました。一つは資源評価に関わる資源研究を主体とする水産資源研究所（横浜本所）で，もう一つは増養殖などの水産技術に関わる水産技術研究所（長崎本所）です。全国にあった各庁舎は，そのどちらかに所属することとなりました。

さけます関連部署が主に所属していた北海道区水産研究所もなくなり，新たに水産資源研究所のさけます部門としてスタートしました。さけます部門の中心は，これまで通り札幌庁舎に置かれています。さけます部門は，資源生態部と資源増殖部の 2 部体制となり，資源増殖部の下に事業課，技術課，本州技術普及課および 12 カ所のさけます事業所が配置されました。これまで，宮古庁舎や塩釜庁舎の本州技術普及課は，東北区水産研究所に所属していましたが，新組織ではさけます部門に集約され，機能別の組織体制が強化され，より機動的な組織となったと考えております。

我が国のさけます資源を取り巻く状況は厳しさを増しており，特に 2010 年代に入ってからのサケ資源の減少は，北海道，本州ともに顕著となっています。サケの生活史における減耗としては，稚魚期の減耗が最も影響が大きいと考えられています。そのため，さけます部門では，近年の稚魚が降海する時期の海洋環境の変動とサケ資源の変動要因の関係性の解明や，このような変動する環境下でのサケ資源の持続的な利用に向けた資源増殖手法の開発やふ化放流技術の高度化などを推進するとともに，国によって定められた個体群維持のためのふ化放流を一体的に実施して行きたいと考えております。

今後も，漁業者や関係者の皆様とともに，サケ資源の回復に向けた調査研究や技術開発を進め，国民の期待に応えられるよう努力して参りたいと思いますので，これまで同様にご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。



図．水産資源研究所「さけます部門」の組織図．